

第2条 自分を許してもいい

「わたしが悪かったんだ」と自分を責めてどうしようもないとき
「どうにもできないことがあったんだ」ということを認めてもよいのです。
自分を責めるのは、あなたにとって、その人の存在がそれほどまでに大事だった証です。
リブオン「大切な人をなくした人のための権利条約」より



4月2日(日)春の暖かさが少しずつ感じられる候、第11回鈴鹿組はなまつりが、田茂町法敬寺さんにてにぎやかに開催されました。森秀海法敬寺ご住職調声で「らいはいのうた」のおつとめ、参加の子どもさんにより灌仏がおこなわれました。「おしゃかさま」のビデオ鑑賞、ミニコンサート(鍵盤楽器の演奏)がありました。甘茶をいただきながら境内でお話しタイム。最後に手作りポスターを描いてくださった方に記念品の贈呈がありました。存仁寺は太田怜那さん、夢菜さんがいただきました。



お天気にも恵まれ子どもさんからご年配の方までたくさん参加になりました。また来年もみんなであいましょうね、そんな思いで解散しました。



4月3日(月)無量寿会はなまつりをおつとめさせていただきました。住職さん調声による「お正信偈」のおつとめ、会員全員で甘茶をかけ灌仏をしました。引き続きご法話「お釈迦さまがルンビニーの花園でお誕生され、七歩あゆまれた。これは、六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅人間・天上)の迷いの世界を超えたところに、安らかなる悟りの境地(涅槃)がある。人として生まれたということは悟りに至るご縁が与えられたということ。そして七歩あゆまれて天と地を示されて「天上天下唯我独尊・三界皆苦我当安之」と高らかにうたわれたのです。このたまわったいのちは誰にも代わることもやり直しも、後戻りもできないたった一つのかげがえのない尊い私であり、一人ひとりがその命をたまり生きているということである。いのちの平等をおっしゃった、そこで天から甘露の雨が降りそそがれたという。そこから甘茶をおかけするというのが始まったのです」。休憩の後総会と皆勤賞、準皆勤賞、全員にお花のプレゼント、井関さんより健康体操で体をほぐしました。





春季永代経法要にて尊いご縁にあわせていただきました。「仏」とはおさとりをめざめられたお方、覚者という意味です。我々は目覚めてないがゆえに、自己中心であり、何でも自分は知っていると思いながらもこのいのち何処へ

行くともわからず常に不安を抱えながら生きている。私の分別で聞いていくのではなく、私のことをちゃんと知っていて下さる、わかってくださっている仏さま私とともにいのちを歩んでくださる方がいらしゃることを、こうしてご縁を通してお聞かせにあずかるのです。2日間の日置先生のご聴聞を皆さまとともにあじわいました。



春季永代経法要後世話方が持たれ、平成28年度会計決算報告、平成29年度行事、予算など審議されました。また、書院に関すること、合同碑など今後の課題に向けて話し合いが持たれました。



またダラしているのか

(父の口癖)

■この数日悪天候が続き、体が怠い
手入れのしない庭は、荒れ放た
久し振りに庭の雑草取りを行った
四月に入り初めての庭仕事だった

■庭の花々も手入れが無く伸び放た
雑草も10cm程に伸びて荒れ放た
剪定と除草を怠り自慢の庭は何処
何時もと違う庭の景色に心が沈む

■ふと父の口癖を思い出して噴出す
何もしないでダラしているのか？
遊びが優先の子供達に呆れ顔の父
父の一言で後片づけに皆が始める

■雑草を間引ながら、思い出に笑う
何故か、父のあの言葉が懐かしい
またダラしているのか？(死語)
今朝も仏壇に、南無阿弥陀仏

天候の悪さに、私の趣味の
植栽である庭の花・木の手
入れも怠り、自慢の庭も荒
れ放題です。どこから手を
付けて整理してよいのか、
しばらく庭を見渡し、打急
け心の体にムチ打って、植
栽の木々の雪囲いのプラ竹
を外し、雪で折れた枝を刈
り、その作業をしながら、
今は亡き父からよく言われ
た「またダラしているのか」

との言葉を思い出しまし
た。父から、私達兄弟は言
われました・・・、「何々し
ておきなさい」と言われた
ことを、何時までも行わな
い私達兄弟を見て、父は「ま
たダラしているのか」と表
現して叱りました。何故か、
庭作業する私が、今思い出
し、可笑しくて「またダラ
しているのか」を口ずさん
でいました。その言葉も今
は死語で、私の周りでは、
現在は聞いた事も無いで
す。今朝も父の遺景に向か
い、南無阿弥陀仏に笑い
みが出ました。私の心にど
こか怠け心で育った事に対
しての父の叱咤激励の言葉
として、私の口から出たと
思いました。

北海道 大島義勝さん

生きのびて 今年の桜を楽しめり
ふだん着で 素直な心 山桜
出逢いあり 別れもありし 花の径
散る桜や 乙女の清き 涙かな
旧姓で 呼び合う花見の 同窓会

石仏の 山をはるかに

桜の道(石山さん)

法友遊きて 想いにしたり

夕ざくら 落合登代子

一生生ければ一日の恥あり
十年生ければ十年の恥あり
恥をしのび悲しみをかんてり
よく生きろはそこにある

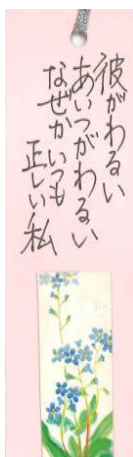


札幌市

大島

光子

さん



森田

瑛子

さん

若菜の中をツバメ舞う初夏の季節となりまし
た。田植えの時節ですね。私たちは日頃どんな
苗を植え続けているのでしょうか、何が実るの
でしょう、なもあみだぶ、なもあみだぶつ。
くれぐれも、おだいじにてお過ごしください。